

●洞窟を利用した地下牢。天井から落ちる水の音が響いている。

目を覚ましたか客人

なんじゃ…

夢でも見ておったのか？

とんだ阿呆面じゃぞ
あほうずら

●鎖に繋がれている主人公。

気付いたか

それは枷よ
かせ

まあ訳あって

それ相応のもてなしと
なっておる

さて…

どうしたものか

お主、何やら良からぬ企てを
しているようじゃが…

正直に答えよ

まさかこの里から

出ようなどとは…

思うまいな？

…ふん

答えないならそれでも構わぬ

●主人公のペニスに触れる色。^{しき}

直接

体に尋ねるとしよう：

おや：これはいかな

逸物が怯えてきつて

縮こまっておる

●手コキ開始。

ほれ：儂の手で

世話してやろう

んっ、ふう：

ふふっ

んっ：どうじゃ

気持ちええかえ？

もう硬くなって

きておるぞ：

それどころか

先走った液が^{しる}

儂の手を汚しておる

体は正直じゃな

おや：

耳が真っ赤に

なっておるではないか

そうじゃな
では：

儂の手にしてくれた様に
お主の耳も：
ぐちゃぐちゃにしてやろう

れろっ…じゅるっ
じゅ…はむ、ちゅ…ちゅぱっ
ちゅぷ、じゅる、じゅぷ
んはぁ…、ふう…あむちゅ
れろ、れろじゅる、じゅぱ、じゅぱ
じゅぷっ…じゅぷ、じゅるる、じゅ

いいようにされて
気分はどうじゃ？

情けない
情けないのお：

じゅ…じゅぷ、れえろれえろ
れえーろ…あむちゅ、ちゅぷ、じゅるる
じゅ、じゅぷ、じゅぱっ、んっ…れろ、れろ
れろれろれろ…ちゅ、れろ、れろれろ…

儂に飼われるなら
牢から出してやつてもよい

そうすればまた
自由に犯し
孕ませられるぞ

どうじゃ…？
悪くない話じゃろう

強がるな…

自らの血を

残したいというのは

生物の本能じゃ

何も悪いことはない

それが…

おす
雄に産まれた

さが
性なのじゃから

れろちゅ、じゅぷ…じゅ、じゅぽっ

じゅぷっ…じゅ、れろじゅ、れろれろ

れろじゅるっ、くちゅ、ちゅぱっ

くちゅ、くちゅ、ちゅる…じゅ、じゅぱっ

限界か…？

いぞ…んっ

れえろ…出せ…っ

このまま…吐き出せっ

子種を…吐き捨てよっ

●色しきの手で射精する主人公。

ん…、っ…

おお…、これはなかなか

濃い精子じゃ

外で溢こぼしたのが

勿体無かったか

まあ、しかし

このまま黙秘を続けるなら
膣には出せんがな

用意された容器の中に
精子を絞られ

種馬たねうまとして一生を終える

想像してみるがいい

これまで散々

小さな膣に子種を

流し込んだお主なら：

さぞ物足りないじゃろうな

まあ、ここで

ゆっくり考えよ

ではの：

●去しぎっていく色。

●しばらくして足音が近づいてくる。

やっと思つけた：っ

大丈夫：っ？

貴方を見送った後
嫌な予感がして…

酷い…

逃げられないように

手足に枷を…
かせ

色^{しき}にだけは

見つかってほしくなかった

アイツは平気で嘘をついて
人を裏切る奴だから

●「一緒に逃げてくれなかったから？」と尋ねる主人公。

…？

なんでそれを…？

夢で…見たの？

私の記憶を

まさか…

私と性行為で繋がったから…？

そう…、そんなことが…

まあ

見たなら話は早いか…

前に神社で

少し話したよね

数百年前この里の人達が

鬼に唆そそのかされて

土地の神様の怒りを
買ってしまったって

それは

アタシを生贄はやりやまいにして流行病を

無くしてもらったことだったの

でも結果的に神様から呪われて
この里は衰退した

鬼の瘴気しょうきでみんな餓鬼がきになった

アタシの友達だった

氷も、隠かくれも：

色も：

もう見ることも

触れることもできない

生贄にされたアタシは
神様になったと言え
聞こえはいいけど
実際は土地に縛られた

楔くさびのような存在

アタシが成仏できない限り
異界と化した里が消えることはない

この地獄は永遠に続く

ごめんなさい…

アタシがあの時

勇気をもって、一人でも

里から逃げ出せていれば…

貴方を…

巻き込まずに済んだのに

ごめんなさい

ごめんなさい…

ごめんなさい…っ

●歩いてくる音。

さて、客人

答えは決まったか？

この里で儂に

飼われる気になったか？

お兄さん

隠、犬のお世話は得意なんです

安心してください

犬のおにーさん

氷が可愛がってあげるよ♡

●「質問がある」と色に尋ねる主人公。

ん…？

なんじゃ…

質問…とな？

言うてみる

●「どうして影と一緒に里をでなかったの？」と尋ねる主人公。

っ…！

え…影ちゃんと…、里を？

出なかった？

…どうしてお主が
それを知っておる

…まさか

お主、影に会っている、のか…？

あやつは…、あやつは
どこにいるのじゃっ

…

まさか…そこにおる、のか…？

ええ…

と言っても

この声は聞こえていないけど

っ…

そうなのか？

客人

● 頷く主人公。

くっ…、そうか

やはり…この里に

縛られておったんじゃないな

…、っ…

そうか…

客人の瘴しょうき気が

溜まりずらいとは

思っておったが

影、お主えいが

払っていたのか…

里から裏切られ…

誰から見えなくなっても

誰かを…救おうとするのか

お主は…

お主というやつは…っ

●その場に膝をつく色。^{しき}

大丈夫ですか？

色様。^{しき}

ああ：

儂は何を：

何を、していたんじやろうな

自暴自棄になつて

里に迷い込んだ旅人を

本能のままに貪り^{むさぼ}

餓鬼^{がき}を増やしてきた

情けない：

色。^{しき}

聞こえておるか：影^{えい}

儂はあの時

お主と里を抜け出すつもりじゃった

でも：

出来なんだ

あの時儂は

里を出ようとするなら

里長に密告して

従者である氷と隠こおり共々かくれ…

生贄にするように仕向けると

そう…奴に脅しをかけられた

え…そんな

色様しき、今までそんなこと…

…というか、奴って誰なんですか？

流行病で苦しむ者を唆そしてそのか

この里を地獄に変えた輩…やから

始まりの鬼じゃ

…っ！

儂は…決断できなかった

何も出来ずに

友を見殺しに

従者を餓鬼がきにした

あれから…

お主を探しておった

ずっと、ずっと…

謝りたかった…

たとえ捕まったとしても
一緒に死んでやらなくて
すまん…と

…っ

なに、それ…

はあ…

じゃあ、アンタを恨んでいた
アタシは何だったのよ…っ

っ…ぐすっ、うっ…ぐすっ

…ねえ

おにーさん

もしかしてだけどさ

昨日、出店を回った後

森の中に影えいといた？

●「うん」と肯定する主人公。

そっか…、やっぱり

なんか懐かしい感じが
したんだよねー

今…

影、そこにいるんだえい

へっ…

一人で寂しかった？

寂しかったに…

決まってるでしょ

この雑魚っ

影ちゃん…えい

隠かくれよりも存在感

なくなっちゃったね

えへへ…

その雑魚い煽り方
相変わらずね

どうせ今も雑魚雑魚
言ってるんだろうなあ…

聞こえないもんね

隠達無敵だよかくれ

ふっ…

雑魚、ばっかだわ…っ

客人、これを受け取れ

●鍵を受け取る主人公。

枷かせの鍵じゃ

●解放される主人公。

礼を言う

お主のお陰で

儂は目が覚めた

その上

恥を承知で頼みがある

影えいをこの里から

連れ出してくれ

正確には

影えいの遺骨を持って

里から出る…じゃな

アタシの…遺骨？

影えいが生贄となった後

その亡骸は

当時の里長である

儂の祖母が引き取り

供養塔を建てた

それが楔くわくの本体と

言っても過言では無い

生者であり

影えいが見えるお主が一緒なら

土地くさびに縛られ楔となった奴を
連れ出せるじやろう

色しき様…それって

明日は七日目

祭りが終わり

里が外とつながる時じや

ようやく

この里を終わらせる時が来た